

開催地名：神奈川県座間市	
開催日時	令和元年10月28日（月） 13：30～15：00
開催場所	ハーモニーホール座間 小ホール
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	市民、企業、行政職員等 約300名
開催経緯	本市は近年大きな災害に見舞われることがなく、職員の災害対応経験は軽微なもの若しくは、被災地への職員派遣しかない状況である。行政職員、教職員の大規模災害発生に対する意識が希薄になっていることが課題となっている。そのため、自助の重要性を啓発する訓練として、毎年市内一斉にシェイクアウトに取り組んでいる。被災時のリアルな体験を聴講し、大規模災害に対する危機意識を醸成し、シェイクアウトがより実効性のある訓練となるよう、本講演にて普及啓発を目指したい。
内容	<p>（1） 防災の基本とは</p> <p>防災の基本は立場や役割とは関係なく、自助、共助、公助と全ての人に関係していると思う。「心配ない」、「ありえない」、「大丈夫」、「まさかと思う」。これらは全て人間だけが思うことである。防災は、危機感と想定以上の備えが基本である。全ての責任者は、最大の危機感と想定以上の備えで命を守ることを是非お願いしたいと思う。</p> <p>危機感：相手は自然災害。「まさか」が起こりうる。→これが災害である。 想定以上の備え：「想定外という言葉は単なる言い訳」 自助：各家庭における防災は災害の知識・備え・共助への理解と努力。 → 家庭で行なっていただきたいこと 住宅の耐震（外壁を含む）、室内の点検、食料・水の備蓄、車の燃料はこまめに満タンに</p> <p>共助：地域において、自助への協力と公助に頼らず共助で解決する。 → 人間には考える力、行動する力がある。自然災害に勝つには、危機感と想定以上の備えが必要。</p> <p>（2） 共助として行なった平成18年からの5カ年の活動</p> <p>災害に勝つために、平成18年からあるとあらゆる準備を行ってきた。まずは、町内会の企画と計画で防災マップ、防災マニュアルの作成を重点的に行い、管轄の茂庭台5丁目全269世帯に配布した。毎年5、6月には防災勉強会も実施し、町内地域において防災に関する意見交換も行った。それらの総仕上げとし、あえて勉強会の内容を忘れた頃（具体的には毎年9月頃）に総合防災訓練を行った。当該防災</p>

訓練は、昼に災害が発生した場合、夜に災害が発生した場合と交互に、地域全世帯の方が全員参加できるように日曜日の開催とした。更に通常は働いていて、大人が自宅や地域にいない時間帯を想定し、平日の昼間に小中高生を中心とした訓練も実施した。

また、地域内の介助者として、かつて医師、介護士、学校の先生などの職についていた方々を募り、災害時の協力体制も整備した。

(3) 避難所の種別について

一時避難所：地域の初期対応の場所（地震の際）

地域指定避難所：自治会、町内会が使用・運営（優先順位あり）

広域避難所：大きな公園、市民広場、スポーツセンター等

福祉避難所：高齢者施設、医療福祉施設、要支援者・要介護者の認定者

(4) 地域防災について

地域防災の「地域」とは、地域内すべてを指します。家庭保育園、保育園、幼稚園、学校、消防、警察、商店会、商工会議所、医療機関、高齢者施設、企業等すべてが地域防災に関係する。行政の様々な組織と連携するとともに、地域の学校との連携も必要である。特に学校は、災害時に指定避難所として開放されるケースがほとんどであるので、学校での防災訓練の実施と地域住民の参加が求められる。



開催地より

防災アドバイザーとしてご活躍されている語り部のお話は、具体性に富み、災害時の対応について大いに参考になることばかりであった。今後の防災活動に活かしていきたいと思う。